小学校５年　社会　調査結果の考察

（１）設定通過率との比較　　※表中の数値は設問数

分類／設定通過率の	観点別			計
	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
＋10％ より高い	1	2	3	6
±10％ の範囲内	3	5	4	１２
－10％ より低い	1	1	0	2
計	5	8	7	２０

（２）考察

①　全体について

ア　全体の90%の問題が設定通過率の－10%以上で、学習状況はおおむね良好である。

②　成果

ア　統計資料を読み取る力が付いている。

イ　秋田県の県庁所在地についての知識が定着している。

③　課題

ア　地図上での方角や距離についての知識・理解が不十分である。

イ　複数の資料を比較・関連させて考える力が不十分である。

（３）今後の指導

ア　複数の資料を活用して、分かったことや考えたことを自分の言葉で表現する力を高めるために、「比較」、「関連」などの思考の仕方を身に付けさせる。

○ポイント［(10を例として］

「比較」、「関連」などの思考のステップ

○具体例

①読み取り・考察

・資料１を読み取り、事象を把握､整理させる。

↓

・考えの具体化

読み取った事実を根拠に考えさせる。

②比較、関連

・考えの関連付け

資料１と２の事象を比べ、共通点や相違点を明らかにし、関連付けて考えさせる。

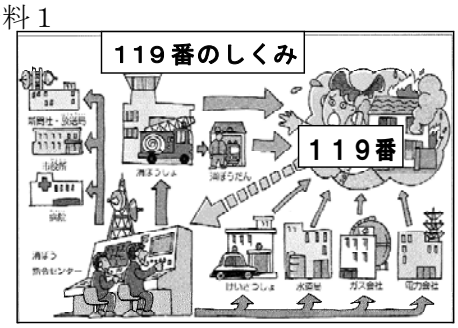
③総合

・考えの深化

すべての事象をまとめて、総合的に考えさせ、自分の言葉で結論を表現させる。

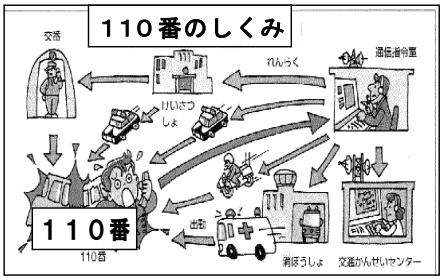
なぜ消ぼう車などは、電話してから５分ほどで現場に行けるのか

資料１



交通事故が起きてしまったときの110番のしくみはどうなっているのか

資料２



二つのしくみは、何のためにつくられているのか

↓

すばやい出動　　さまざまな機関の協力

・児童にとって驚きや疑問を引き出す資料を提示し、課題意識をもてるような社会的事象との出会いを工夫する。

・課題意識を基に、「なぜ～」「どのように～」のような、単元の目標につながる社会的事象の特色や意味について追究する学習問題を設定する。

・「比較」とは、共通点や相違点から、特色や意味を考えること、「関連」とは、事象間のつながりから、その間にあるものを考えることである。

・総合的に考えたことをまとめる際には、考えの根拠となる資料を載せたり、キーワードを意識して短い文章で記述させたりする活動が大切である。